

地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会
第 5 回情報共有会合議事概要

1. 日時：平成 28 年 2 月 25 日 15:00～16:30

2. 場所：札幌第 1 合同庁舎 10F 共用第 4 会議室

3. 出席者 23 名

北海道開発局（3 名）、陸上自衛隊北部方面総監部（2 名）、札幌市（3 名）、日本測量協会北海道支部（2 名）、建設コンサルタンツ協会北海道支部、北海道 GIS・GPS 研究会（2 名）、北海道 GIS 技術研究会、日本写真測量学会北海道支部、北海道測量設計業協会、Digital 北海道研究会（2 名）、北海道大学、国土地理院（4 名）

4. 議事

(1) 次世代測位衛星利用の効果と複数の衛星測位システム（マルチ GNSS）測量に向けて

国土地理院北海道地方測量部 岩田 昭雄

(2) 測量への無人航空機（UAV）の導入に向けた検討状況について

国土地理院基本図情報部地図情報技術開発室 宮地 邦英

5. 配付資料

(1) 事務局

- ・議事次第・出席者名簿
- ・イベントカレンダーについて

(2) 発表資料

- ・次世代測位衛星利用の効果と複数の衛星測位システム（マルチ GNSS）測量に向けて
- ・測量への無人航空機（UAV）の導入に向けた検討状況について

(3) 関係団体等

- ・日本写真測量学会北海道支部第 34 回学術講演会（日本写真測量学会北海道支部）
- ・サッポロ・オープンデータ GIS 大賞（Digital 北海道研究会）

6. 議事概要

今回の会合は、次の 2 課題の発表を行った。

(1) 国土地理院北海道地方測量部より、「次世代測位衛星利用の効果と複数の衛

星測位システム（マルチ GNSS）測量に向けて」について説明した。準天頂衛星の補正情報、マルチ GNSS 対応受信機の普及状況、情報化施工におけるマルチ GNSS のメリットに関する質問があり、cm 級の補正情報は有効に使われている一方で m 級の補正情報は使用しなくても 1m 以下の測位精度が実現していること、電子基準点がマルチ GNSS 対応を行っているほか市販の受信機もマルチ GNSS 対応になってきているもののソフトウェアの開発が進んでいないこと、情報化施工においては林道など上空視界が限られる箇所において GNSS 測量が可能となる範囲が広がるとの回答があった。

(2) 国土地理院地図情報技術開発室より、測量への無人航空機（UAV）の導入に向けた検討状況について報告があった。国土地理院の安全管理の内規における操縦訓練の段階区分、検討中の測量マニュアルにおいて Phantom シリーズ（DJI 社）の UAV が写真測量（図化）への使用の対象になるか、i-Construction において 3 次元の測量に国土地理院がどのようにかかわるか、i-Construction の対応において、コンサルが設計する前に UAV 等による 3 次元測量を行うのは精度的に難しいと思うがどうかなど多くの質問があった。発表者からは、国土地理院内の UAV の操縦訓練における段階区分の内容、測量マニュアルではファントムクラスの UAV も応用測量への使用を排除していないこと（訂正：図化については Phantom クラスでは不可）、公共測量のみならず i-construction との関連においても UAV を用いた空中写真測量マニュアルを策定すること、国土技術政策総合研究所の資料では施工中の場所について検証していて高精度な結果が出ているように見えたが、設計前については確認できていないことなどが回答された。

7. その他

日本写真測量学会北海道支部から「第 34 回学術講演会」の案内、Digital 北海道研究会から「サッポロ・オープンデータ GIS 大賞」の案内がそれぞれ行われた。また、イベントカレンダーに掲載するため、来年度のイベント情報の提供依頼が行われた。